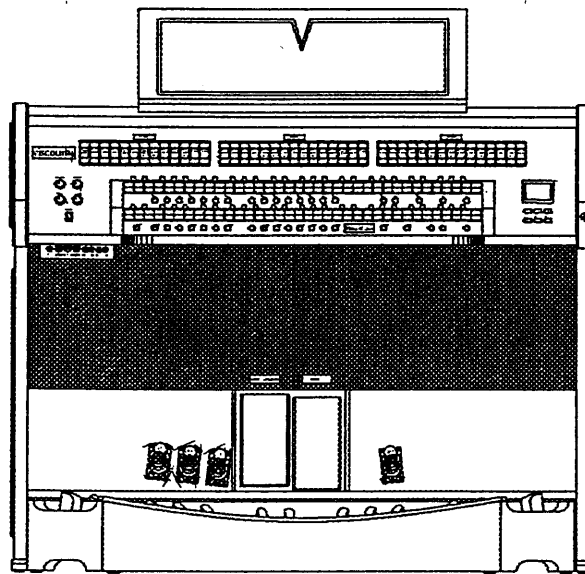


viscount

Jubilate 60 Deluxe

Jubilate 60

Jubilate 50 Deluxe



Manuale d'Uso - IT

User Manual - EN

Bedienungsanleitung - DE

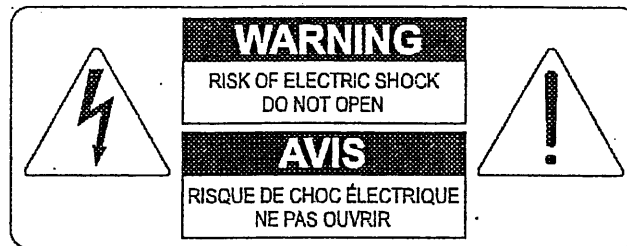
Handleiding - NL

Mode d'Emploi - FR

Ver. EU - 1.0

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

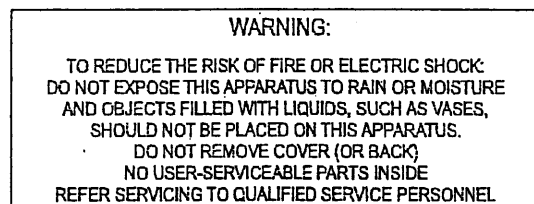
WARNING: READ THIS FIRST!



This symbol is intended to alert the user to the presence of uninsulated "dangerous voltage" within the product's enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.



This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.



"INSTRUCTIONS PERTAINING TO A RISK OF FIRE, ELECTRIC SHOCK, OR INJURY TO PERSONS"

警 告

- 1) この取扱説明書をよくお読み下さい。
- 2) この取扱説明書を保管して下さい。
- 3) すべての警告にご注意下さい。
- 4) すべての指示に従って下さい。
- 5) この楽器を水まわりで使用しないで下さい。
- 6) 楽器を拭くときは、乾いた布をご使用下さい。
- 7) 楽器の開口部を塞がないで下さい。メーカーの指定する場所に設置して下さい。
- 8) 熱源の近くに設置しないで下さい。
- 9) 安全のため、極性のあるプラグ、またはアース付のプラグを使用して下さい。
- 10) 電源コードを踏んだり、はさんだりしないで下さい。
- 11) メーカーの付属品をご使用下さい。
- 12) メーカー専用のカート、スタンド、三脚、ブラケットをご使用下さい。
カートを使用する場合は、転倒防止にご注意下さい。
- 13) 雷の場合や、長く使用しない場合はプラグを抜いて下さい。
- 14) 修理は資格のあるサービスマンにご相談下さい。電源コードやプラグが壊れた場合、液体がこぼれたり、ものが落ちた場合、雨や湿気にさらされた場合、通常に操作できない場合、落とした場合。



目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 1.重要な注意点 | 2 |
| 1.1楽器のケア | 2 |
| 2.コントロールと接続 | 3 |
| 2.1フロントパネル | 3 |
| 2.2マニュアルスプリッターコントロール | 3 |
| 2.3サイドパネル | 5 |
| 2.4ペダルのコントロール | 6 |
| 2.5鍵盤棚下の接続端子 | 7 |
| 2.6リアパネルの接続端子 | 8 |
| 3.メイン・コントロール・ユニット | 9 |
| 3.1電源オンとメイン画面 | 9 |
| 3.2オルガンのセットアップ機能 | 11 |
| 4.オルガンスタイル | 13 |
| 5.ボイスの交換とボイス・ボリュームの調整 | 14 |
| 5.1ボイス・ボリューム調整 | 14 |
| 5.2ボイス・ボリュームの交換 | 15 |
| 5.3ストップラベルのチェック | 17 |
| 6.ジェネラルセッティング | 19 |
| 6.1トレミュラントの設定 | 20 |
| 6.2リハープの選択 | 20 |
| 6.3内蔵イコライザーの設定 | 21 |
| 6.4オーディオアウト・イコライザーの設定 | 22 |
| 6.5オーディオアウトへのシグナル・ルーティング | 22 |
| 6.6オーディオアウトボリュームの調整 | 23 |
| 6.7手鍵盤の基本設定 | 23 |
| 6.8ピストンの設定 | 24 |
| 6.9コンビネーション保存の設定 | 25 |
| 7.MIDI | 26 |
| 7.1チャンネルを選ぶ | 28 |
| 7.2プログラム・チェンジ・メッセージの送信 | 28 |
| 7.3フィルターの設定 | 29 |
| 8.ユーティリティ | 30 |
| 8.1ファクトリー・セッティング | 30 |
| 9.アペンディクス | 33 |
| 9.1デモソング | 33 |
| 9.2ボイス ローカルオフ | 33 |
| 9.3オペレーションシステムのアップグレード | 34 |

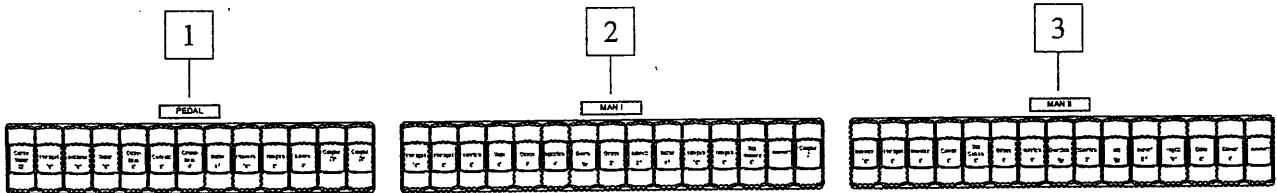
1.1 楽器のケア

- ・オルガン本体やコントロール部(ノブ、ストップ、ボタン等)に無理な力を加えないで下さい。
- ・ラジオ、テレビ、コンピューター、ビデオ等強いノイズを出す機器の近くに、オルガンを設置しないで下さい。
- ・熱源の近く、湿気の多い場所、ほこりっぽい場所、また磁気の強い所にオルガンを設置しないで下さい。
- ・楽器を直射日光にさらさないで下さい。
- ・楽器内部に異物を入れたり、液体をこぼしたりしないで下さい。
- ・掃除をする場合は、柔らかいブラシか、エアを使用して下さい。洗剤、溶剤、アルコールは決して使わないで下さい。
- ・スピーカーへの接続にはシールドケーブルを使用して下さい。ケーブルをはずすときは、必ずコネクター部分を持って下さい。またケーブルを巻くときは、結んだり、ねじったりしないで下さい。
- ・スピーカーへの接続を確認してから、スイッチをONにしてください。雑音や危険なピーク信号を避けることができます。
- ・長期間オルガンを使用しない場合は、電源ソケットからプラグを抜いて下さい。

2.コントロールと接続

2.1 フロントパネル

手鍵盤の上にあるフロントパネルには鍵盤部毎にまとめたストップがあります。これらのストップでオルガンのレジスターをオンオフします。



1. [PEDAL]ストップ： ここには足鍵盤のボイスとカプラーがあります。

- I/P: Man.Iのボイスを足鍵盤で演奏できます。
- II/P: Man.IIのボイスを足鍵盤で演奏できます。

2. [MAN.I]ストップ： ここにはMAN.Iのボイスとカプラーがあります。

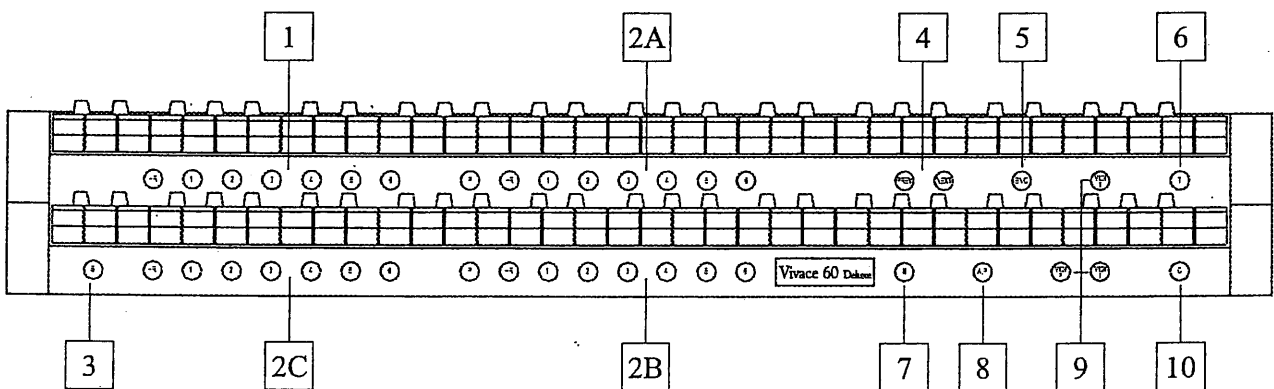
- II/I: Man.IIのボイスをMan.Iで演奏できます。

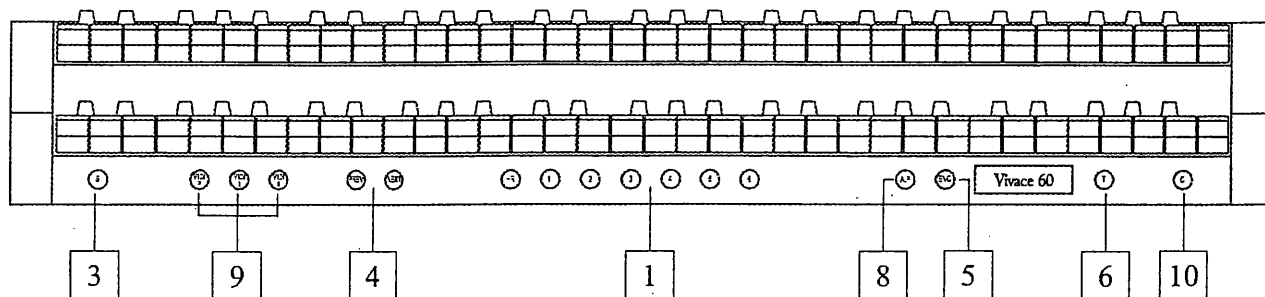
3. [MAN.II]ストップ： ここにはMAN.IIのボイスがあります。

2.2 マニュアル スプリッター コントロール

手鍵盤のすぐ下に、メモリー、トゥッティ、カプラー他のボタンがあります。ジュビレート60DLXにはジェネラル・メモリーと各鍵盤部の専用メモリーがあります。

ジュビレート60とジュビレート50の場合はジェネラル・メモリーだけなので、そのボタンはMan.Iの下にあります。





1. ジェネラル・メモリー: ここにはジェネラル・メモリーがあります。メモリーを呼び出すと関連するストップが点灯します。
[NEXT] ボタンを押すと、次のメモリーが選ばれ、[PREV] ボタンを押すと、1つ前のメモリーへ戻ります。
2. 専用メモリー(Jubilate 60Dlxのみ): Jubilate60 Deluxe には、Man.II(2A)用、Man.I(2B)用、足鍵盤(2C)用それぞれの専用メモリーがあります。
メモリーを呼び出すと関連するストップが点灯します。
専用メモリーでは、関連する鍵盤部のみのメモリーができます。

メモリーボタンの横に、[HR] というボタンがあります。このボタンを押すと、現在のレジストレーションが自動的にメモリーされます。このボタンの主な機能は、メモリーボタン使用時に、メモリー以外に設定したレジストレーションを復活するものです。HRのメモリーは、手動でストップをオン・オフさせないと変更できません。

注意: HRのメモリーはオルガンの電源スイッチを切ると消えます。

各メモリー(HR、トゥッティ含む)は保存できます。

- ストップのオン/オフの状態
- カブラーの状態(セーブ可能等。)
- トレモラントの状態(変更したのもも保存できます)。
- オルガン・スタイル(ハロック、ロマンティック etc.)
- MIDIコントロールとSEND PROGRAM CHANGE機能を使ったプログラム・チェンジの保存。

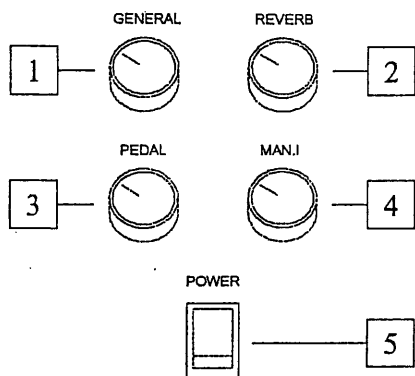
エンクローストとオートマティック・ペダルはジェネラル・メモリー、HR、Tuttiに保存できます。

- 3.[S] ピストン: レジストレーションをセットする時に使うボタンです。ボイスのコンビネーション(レジストレーション)を作り、メモリーボタン(ジェネラル、トゥッティ、専用メモリー)を押したまま、[S]ボタンを押すと、メモリーできます。
4. [NEXT] と [PREV.] ピストン: ジェネラル・メモリーの送りボタンです。[NEXT]を押すと、次のメモリーへ進み、(1のときは2へ進む)、[PREV.] を押すと前へ戻ります。(3のときは2へ戻る)

2.3 サイドパネル

操作をしやすいように、調整つまみはすべて左サイドパネルに、ディスプレイとコントロールボタンは右サイドパネルへ配置しました。

左パネル

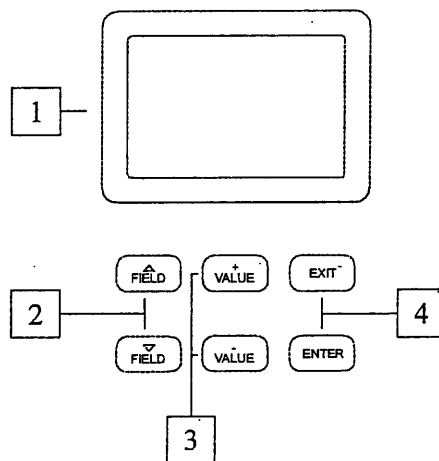


1. [GENERAL]トリマー: オルガンのジェネラルボリュームの調整に使用します。
2. [REVERB]トリマー: リバース効果のレベル調整に使用します。
3. [PEDAL]トリマー: 足鍵盤のボリューム調整つまみ
4. [MAN I]トリマー: Man.Iのボリューム調整つまみ
5. [POWER]スイッチ: オルガンの電源オン・オフスイッチ

注意: オルガンの電源を連続してすばやくオン・オフさせないでください。オフにした後は最低10秒待ってから再び電源をオンにして下さい。

右パネル

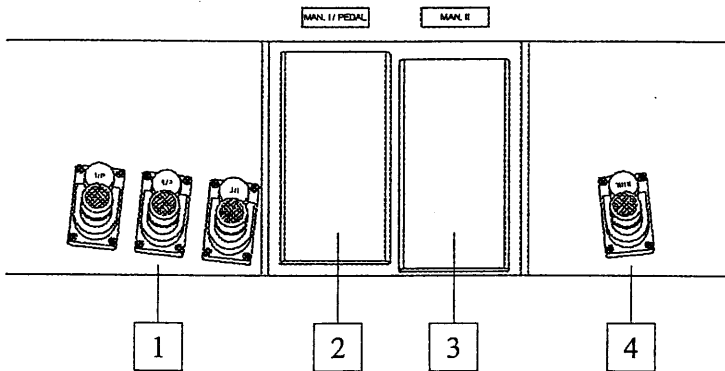
1. ディスプレイ: 128X64ピクセルのグラフィックディスプレイで、オルガンの各機能に対応します。
2. [FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタン: ディスプレイ上でカーソルを動かすボタンです。[FIELD ▲]は上のフィールドへ動き、[FIELD ▼]は下のフィールドへ動きます。
3. [VALUE +]、[VALUE -]ボタン: パラメーター調整に使用します。[VALUE +]は数値が増加し、[VALUE -]は数値が減少します。
4. [EXIT]と[ENTER]ボタン: ディスプレイのメニューへアクセスしたり、離脱したりするボタンです。[ENTER]はメニューに入ったり、確認に使用します。[EXIT]はディスプレイの画面を終了したり、コンピューターのメッセージを認めない場合に使用します。



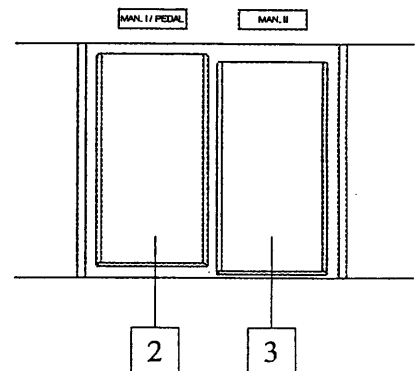
2.4 ペダルのコントロール

ここにはスウェル・ペダルがあります。JU60DXにはさらにカプラー、トゥッティ用のフットピストンがあります。

Jubilate 60 Deluxe



Jubilate 60 and 50 Deluxe



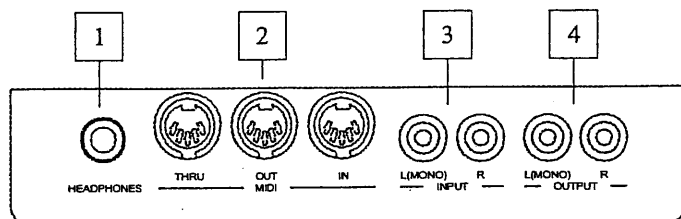
- 1.カプラー・フットピストン: カプラーを作動させるピストンです。
- 2.[MAN. I/PEDAL] ペダル: Man.I と足鍵盤のボリュームコントロールに使います。
- 3.[Man.II]ペダル: このペダルでMan.IIのボリューム・コントロールができます。
- 4.[TUTTI]フットピストン: トゥッティを作動するフットピストンです。

注意: 左サイドパネルのボリューム調整つまみは、各鍵盤部のボリュームバランスをとります。各鍵盤部のボリュームをお好みに合わせて一度設定すれば、頻繁に調整する必要はありません。

一方、スウェルペダルはご希望の強弱を付けるために、常にコントロールすることになります。ボリュームの調整とは別に、スウェルペダルはパイプオルガンのスウェル・ボックスの音色変化のシミュレートもします。

2.5 鍵盤棚下の接続端子

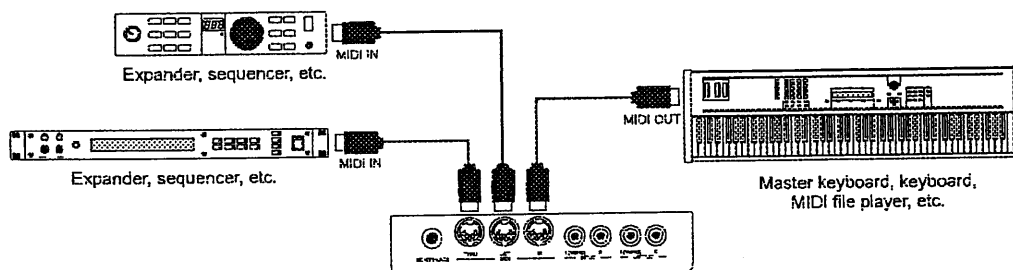
鍵盤棚下左側にMIDIやリモートの接続端子があります。



1.[HEADPHONES]コネクター: ヘッドフォンの接続端子です。(フォン・ジャック) ヘッドフォンをつなぐと、オルガンの音が出なくなります。

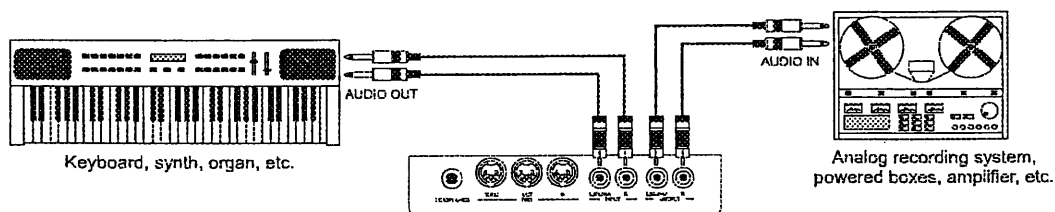
注意: ヘッドフォンの音を最適にするために、16Ωのヘッドフォンを推奨します。

2.[MIDI]コネクター: MIDIインターフェースを持つ楽器の接続に使用する、5ピンのDINプラグ用ソケットです。[IN]は他のMIDIソースから送られた信号を受け、[OUT]はオルガンから発信した信号を送り出し、[THRU]はINに受けた信号を正確に送り出すための端子です。



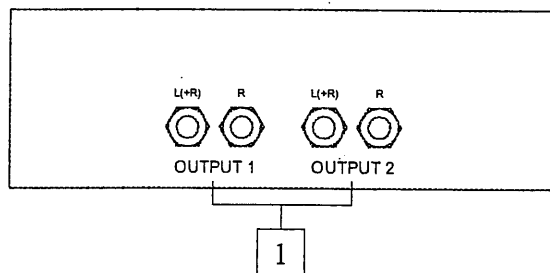
3.[INPUT]コネクター: 他の楽器で演奏したものを、オルガンのアンプで音を出すための端子です。(ピン・ジャック) 音源がモノの場合はL(MONO)へつないでください。

4.[OUTPUT]コネクター: アンプを通さない信号を送り出す端子で、アンプ付スピーカーや録音システムへ接続するためのものです。信号がモノの場合はL(MONO)へつないでください。



2.6 リア・パネルの接続

リアパネルの下方にはオーディオ・アウトプットがあります。前面のアウトプットと、リアパネルのアウトプットの違いは、前面のアウトプットにはオルガンからの信号が含まれており、リアパネルのアウトプットには各鍵盤部の信号が送られます。各アウトプットはディスプレイの設定に従って調整されます。



1.[OUTPUT 1] と[OUTPUT 2]のコンネクター:

ディスプレイの機能によって送られた、オルガンの信号を出力するジャック・ライン・アウトプットです。ファクトリー・セッティングを行うと、アウトプットの信号は次のようになります。

- [OUTPUT 1] :全体信号
- [OUTPUT 2] :リハープのみ

3.メイン コントロール ユニット

右サイドパネルに、オルガンの内部機能を調整するメインコントロールユニットがあります。ジュビレート60にはいろいろな機能があり、ユーザーがカスタマイズできます。オルガンスタイル(バロック、ロマンティック等)、ボイスとそのボリューム等の設定も可能です。

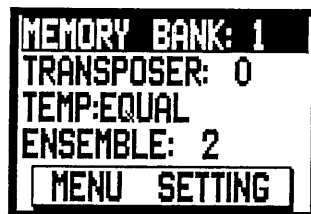
音量レベル、イコライザー、リモート・アウトプットのチャンネル割当ても調整できます。トレミュラントやリハープの調整の他に、MIDIインターフェースの構成も調整できます。

3.1 電源オンとメイン画面

オルガンの電源をオンにすると、数秒後に(その間にアンプ回路の立上げ、オルガンのコンフィギュレーションを行います)使用可能状態になります。その間ディスプレイははじめの画面を表示します。



楽器にインストールしたファームウェアをチェックします。
電源立上げが終わると、画面は次のようになります。



- MEMORY BANK: このパラメーターを使って8つあるメモリー・バンクを選ぶことができます。ジェネラル・メモリーと専用メモリーが保存できます。48のジェネラル・メモリー(6ジェネラル・メモリー×8メモリー・バンク)が保存できますので、複数のオルガニストが使用する場合に便利です。(ジュビレート60DXには192の鍵盤毎の専用メモリーも保存できます。)
- TRANSPOSER: +5/-6 半音の範囲で移調できま。(1目盛りが1半音です。)

- TEMPERAMENT: ここではいろいろな時代と国々の歴史的テンペラメントを選ぶことができます。EQUAL, KIRNBERGER, WERCKMEISTER, PYTHAGOREAN, MEANTONE, VALLOTTI が入っています。
- ENSEMBLE: これはパイプオルガンが経年変化と気候の影響で、調律が微妙にずれる現象を6段階でシミュレートしたものです。正確なピッチをお望みの場合は-を選んで下さい。
- SETTING MENU: オルガンの設定機能へアクセスするフィールドです。

画面内部での移動方法

画面のカーソルは暗転した部分にあります。例えば前ページの例では、カーソルはMEMORY BANKのパラメーターにあります。

カーソルを動かすためには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンを使って下さい。

[FIELD ▲] ボタンはカーソルを上へ動かし、[FIELD ▼] ボタンはカーソルを下へ動かします。

もしも、そのメニューに複数の画面がある場合は、左上角に矢印が現れます。

↓ 現在の画面に続きがある

↑ 現在の画面の前に画面がある

⇕ 現在の画面の前にも、後にも画面がある

サブメニューや機能へアクセスするには[ENTER]を押します。また現在の画面を終了するには[EXIT]を押します。

パラメーターの調整や、いろいろなセッティングを選ぶには、[VALUE +], [VALUE -] ボタンを使います。

TEMPERAMENT: このオルガンでは次の5つのテンペラメントが使えます。

MEANTONE: 8個の純粋な長3度(Eb-G/Bb-D/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G#)

使用できない長3度(減4度) (B-D#/F#-A#/C#-E#/Ab-C)

ウルフの5度: G#-Eb、不規則な半音階。

ミートンで使用できる調: C,D,G,A,Bb とそれぞれの平行短調。

以下はすべての調を使えるように工夫したのですが、それぞれの響に特徴があります。

WERCKMEISTER: オルガニスト、楽理学者のアントレアス・ヴェルクマイスターの考案になるもので1600年代後半のドイツ音楽に向きます。

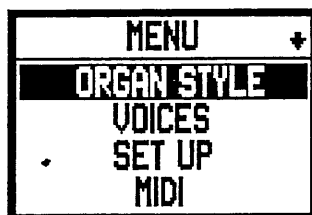
KIRNBERGER: J.S.バッハの弟子、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案した、このテンペラメントはドイツ・バロックとバッハの作品の演奏に向きます。

PYTHAGOREAN: 純正5度を保持したもので、中世から15世紀の音楽に向きます。

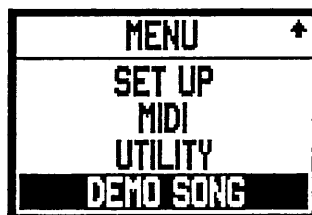
VALLOTTI: Vallottiのテンペラメントは後にイギリスのトマス・ヤングに採用されました。18世紀のイタリア音楽と、イギリス音楽に向きます。

3.2 オルガンのセットアップ機能の説明

メイン画面からMENU SETTINGを選ぶと、オルガンのすべてのセットアップ機能を含むメニューへアクセスできます。その最初の画面は次のようになります。



[FIELD ▼] ボタンで下の方へスクロールすると、メニューの次の部分が表示されます。

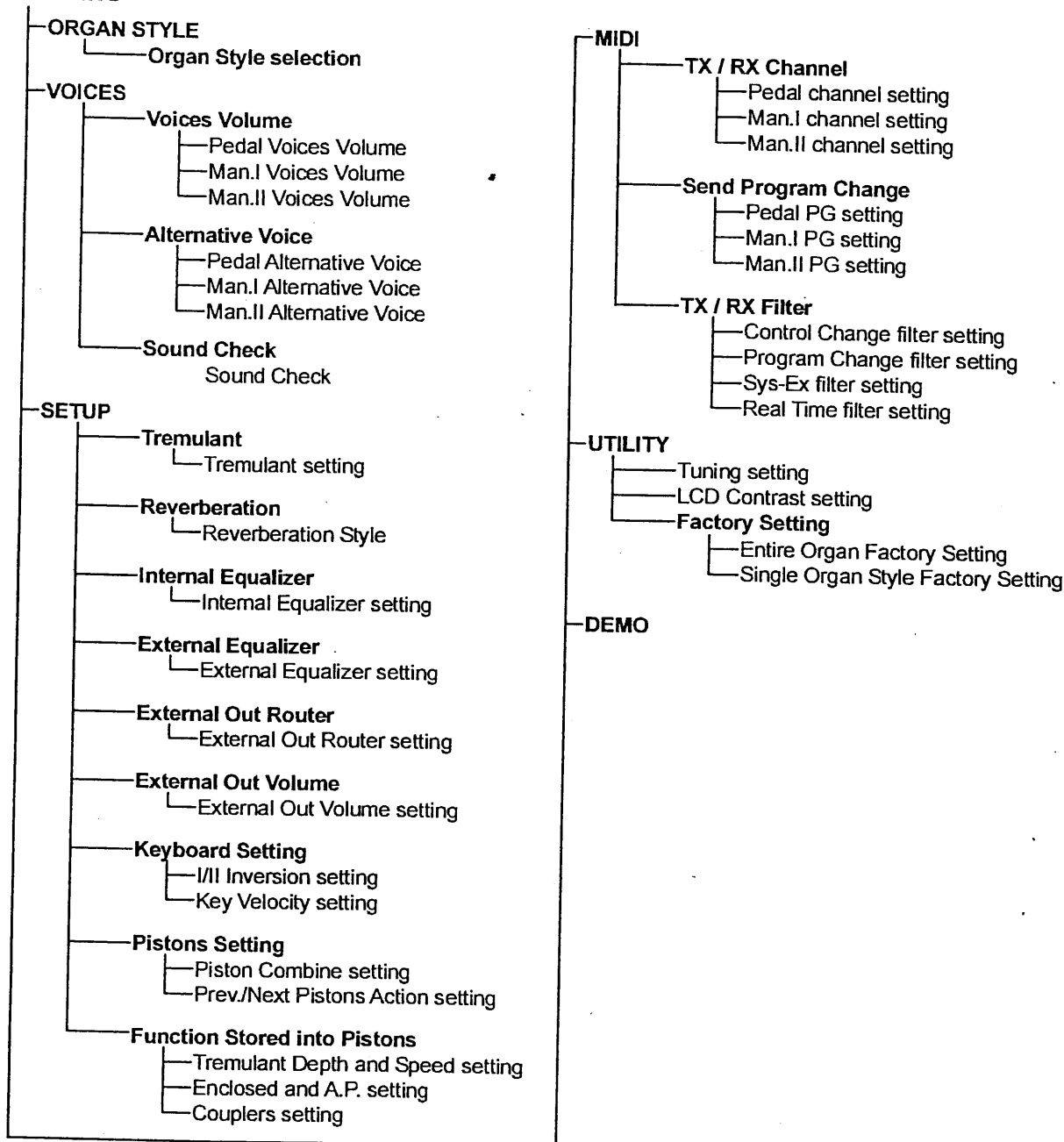


- ORGAN STYLE: バロック、ロマンティック等の切替
- VOICES: オルガンボイスの設定機能。ボイスの入替え、調整、レジスターストップのチェックを行います。
- SETUP: このサブメニューにはオルガンのジェネラル・セッティングがあります。トミュラント、イコライザー、リバーブ・タイプを選択、アウトプット信号の調整、手鍵盤の設定、ピストンの設定。
- MIDI: オルガンのMIDIインターフェースの設定
- UTILITY: オルガン調律の微調整、ディスプレイ・コントラスト、ファクトリー・セッティングの呼出し。
- DEMO SONG: デモソング

サブメニューへアクセスするには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで関連するフィールドを選び、[ENTER]を押します。[EXIT]ボタンを押せば、メイン画面へ戻ります。

下に、サブメニューの表を上げておきます。

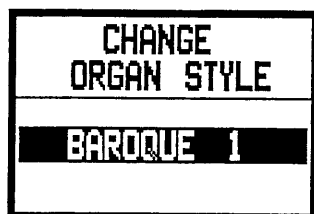
MENU SETTING



4.オルガン スタイル

ジュビレートシリーズの重要な特長として3つのオルガンスタイルが選べることです。バロック、ロマンティック、シンフォニックがそれで、演奏する曲に合わせて、相応しいものを選ぶことができます。各スタイルにはそれぞれバリエーションがあり、トータル6つなっています。それらは、ボイス交換機能や、ボイスボリューム調整機能によって行った修正を自動的に各スタイルにセーブできます。つまり各スタイルは好みに合わせて自由に修正可能なため、カスタマイズすることができます。

オルガンスタイルを選ぶ画面は、SETTING MENUからORGAN STYLEを選ぶとアクセスできます。



[VALUE +], [VALUE -] ボタンで必要なスタイルを選びます。

BAROQUE 1, BAROQUE 2, ROMANTIC 1, ROMANTIC 2, SYMPHONIC 1, SYMPHONIC 2;

選んだスタイルは直ちに有効になります。この選択をセーブするには[EXIT]を押します。

オルガンスタイルの選択が終わったら、フロントパネルのストップとボイスが対応しているかどうかチェックする必要があります。

ボイスストップの対応をチェックするためには、5.3に説明するSOUND CHECK機能呼び出して下さい。

オルガンスタイルには下記の機能もセーブされます。

- 交換ボイス(各ストップに割当てられたボイス)
- ボイス・ボリューム(各ボイスの音量)
- リバース(リバース効果のタイプ)
- 内部イコライザー(内部アンプのイコライザー)
- アウトプット・イコライザー(リアパネルのオーディオ・アウトプットのイコライザー)

5.ボイスの交換とボイス・ボリュームの調整

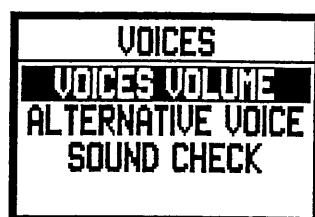
ジュビレートシリーズの新しい機能として、初めにフロント・パネルのストップに割り当てられていたボイスをオルガンのメモリーにある別のボイスとの交換ができます。

すばやく、簡単にボイス交換ができるので、いつでもお望み通りのセット・アップが可能です。

複数のオルガニストがそれぞれのセット・アップをプリセットできます。

各ボイスのボリューム・コントロールにより、レジスターのセツアップはより細かな調整が可能です。

SETTING MENUからVOICESのフィールドを選びボイス調整の各機能へ入ります。
その画面は次の通りです。



- VOICE VOLUME: ボイスのボリューム調整を行います。
- ALTERNATIVE VOICE: 交換用ボイス
- SOUND CHECK: ストップとボイスの関係をチェックする。

これらの機能にアクセスするには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで関連するフィールドを選び、[ENTER]を押します。[EXIT]ボタンを押せば、SETTING MENU へ戻ります。

5.1 ボイス ボリュームの調整

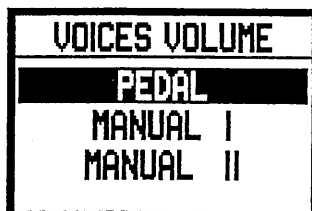
この機能を使うと、各ボイスのボリュームを、-9dBから+9dBまでの範囲で調整できます。

変更は即座に保存されます。リアルタイムで音を聞けるので、調整が簡単です。

ボイス ボリュームはオルガン・スタイルにも保存されます。スタイルが変更されると、ボイス ボリュームも新しいスタイルに合うように、変更されます。

しかし、別のスタイルを呼び出しても、ボイス ボリュームの変更は失われず、前の(変更した時の)スタイルに保存されます。

この機能を呼び出すには、SETTING MENU からVOICE VOLUMEを選びます。画面は次のようになります。



変更したいボイスを含む鍵盤部を選びます。

| PEDAL VOICE VOL. + | | |
|--------------------|---------------|----|
| 1 | Ct. Violon 32 | +3 |
| 2 | Prinzipal 16C | +4 |
| 3 | Subbass 16A | 0 |
| 4 | Violon 16 | -1 |

ディスプレイには呼び出した鍵盤部の最初の4つのボイス(とストップナンバー)が表示されます。

[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで交換したいボイスを選びます。

ストップを使えば、即座にそのボイスとボリュームが選ばれます。[VALUE +], [VALUE -] ボタンでボリュームを調整します。新しい数値は保存され、リアルタイムで聴くことができます。[EXIT]を押して、前の画面へ戻ります。

重要な注意: 各ボイスボリュームは現在のオルガン・スタイルに保存されます。つまり他のスタイルを呼び出すと、ボイスボリュームは呼出されたスタイルに保存したものになります。すべてのスタイルのオリジナルボリュームにもどすには、ファクトリーセッティングを行って下さい。

5.2 ボイスボリュームの交換

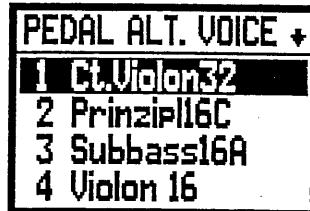
ジュビレートにはボイスの入替え機能があります。オルガン内部にいろいろなボイスを持っていて、多様な組合せが可能です。交換するボイスはオリジナルと同じ族の同じフット数(Prinzipal 8')のものでなければなりません。

ジュビレートのボイスは、フル管系、リード系、ミクスチャー系、コルネット系に分類されています。

ボイスの交換機能と呼出すには、VOICEのサブメニューからALTERNATIVE VOICEを選びます。最初の画面は次のようになります。

| ALTERNATIVE VOICE |
|----------------------|
| PEDAL |
| MANUAL I |
| MANUAL II |
| or switch On the tab |

ボイスを交換する鍵盤部を選ぶか、前面パネルのストップを押して(オンにする)選びます。この画面から選ぶと、はじめの4つのボイスが表示されます。



(ストップボタンで選ぶと次の画面へ飛びます)

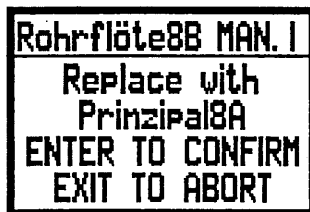
ここでまた、[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って、交換するボイスを選びます。
カーソルを交換したいボイスにあてて、[ENTER]を押します。



一番上には交換しようとしているボイスが表示され、その下に、そのストップで交換可能なボイスが表示されます。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って、交換可能なボイスをスクロールできます。
カーソルがボイスの上に移動するとそのボイスを聴くことができ、変更が楽にできます。

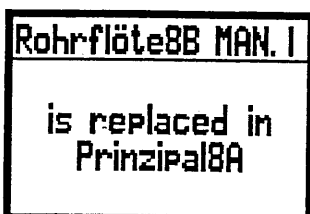
交換したいボイスを決めたら、[ENTER]を押します。



一番上に交換する前のボイスが表示され、その下に、新しく使用するボイスが表示されます。
さらに、このジョブを実行するかどうかの表示も出ます。この段階では、まだ新しいボイスのロードは不完全で、ただ音を聴くことができます。

表示にしたがって、[ENTER]を押せばボイスの交換が実行されます。
(また、このときに、[EXIT]を押せばこのジョブが取り消されます。)

[ENTER]を押すとコンピューターはボイスを入替え、次の画面がでます。



ボイスの交換完了後、フロントパネルのストップラベルを確認して下さい。現在有効になったボイスがストップ名と一致しているかどうかを確認する必要があります。このチェックはこれから説明するSOUND CHECK機能を使って行います。

最期に[EXIT]を押して、この機能を終了します。

オーケストラ・ボイス

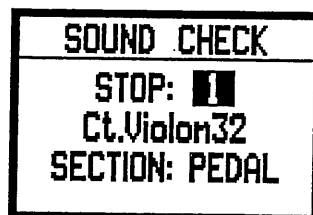
ジュビレートでは、ALTERNATIVE VOICE 機能を使って、オーケストラ・ボイスを呼出すこともできます。オーケストラ・ボイスの割当てには制約があり、つぎのものが可能です。

- ストップ1 (足鍵盤): Finger Acoustic Bass, Bowed Acoustic Bass, Tuba
- ストップ17(Man.I)、33(Man.II): Strings1, Strings2, Choir1, Choir2, Choir3, Harpsichord
Harp, Celesta, Chime (E2-G5に音域短縮)

重要な注意: 各ストップにロードされたボイスは自動的に現在のオルガン・スタイルに保存されます。他のスタイルを呼び出すと、ボイスは呼出されたスタイルのものとなります。交換したボイスをロードすると、ボイスを交換する前のボイス・ボリュームに設定されます。すべてのスタイルのオリジナル ボリュームにもどすには、ファクトリーセッティングを行って下さい。

5.3 ストップラベルのチェック

異なったオルガンスタイルを選んだり、いろいろなボイスがロードされた後では、ストップラベルがボイスと一致しなくなっている状況が考えられます。そこで、ラベルとボイスにくいちがいがいかチェックする必要があります。一致していない場合はラベルを入替えて下さい。SOUND CHECK機能を起動するには、カーソルでSETTING MENU からSOUND CHECK機能を選びます。画面は次のようになります。



STOPフィールドにはチェックするストップナンバーが含まれています。

下の段にはそのストップに現在実際にあるボイスが示されます。

SECTION フィールドには現在アクティブになっているボイスが所属する鍵盤部を示します。

[VALUE +], [VALUE -] ボタンを使ってすべてのレジスターをスクロールできます。

あるいはストップを押してもそのストップを選ぶことができます。

すべてのストップのラベルチェックが終わったら、[EXIT]ボタンを押して、VOICESメニューへ戻ります。

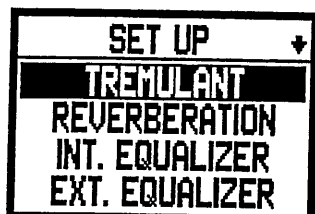
ラベルの交換

ラベルは押し込んであるだけなので、簡単に交換できます。下図のように指か小さいドライバーでラベルをはずし、正しいものをはめて下さい。

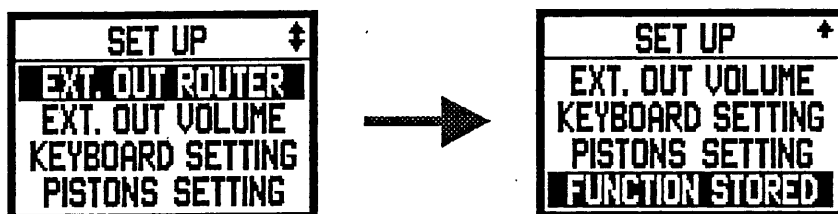


6. ジェネラル・セッティング

ボイスとMIDI以外の設定機能がここにあります。SETTINGメニューからSET UPを選びます。最初の画面は下記の通りです。



たくさんの設定があるので、メニューは2つの画面に別れています。カーソルを下方方向にスクロールすると、次のリスト(設定)へ進みます。



ここにある設定は下記の通りです。

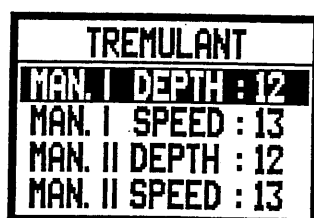
- TREMULANT: 各鍵盤のトレミュラントの設定を行う機能です。
- REVERBERATION : リバースの種類を選べます。
- INT.EQUALIZER : オルガン内蔵のイコライザーの調整機能です。
- EXT. EQUALIZER : オルガンのアウトプット [OUTPUT 1], [OUTPUT 2] の調整機能です。
- EXT. OUT ROUTER : 各鍵盤部のアウトプット [OUTPUT 1], [OUTPUT 2] へのルーターです。
- EXT. OUT VOLUME : オーディオ・アウトプット のボリューム調整機能です。
- KEYBOARDS SETTING : 手鍵盤と足鍵盤のパラメーターの調整を行う機能です。
- PISTON SETTING : ピストンの調整を行う機能です。
- FUNCTION STORED : コンビネーション・セッティング機能です。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って必要なフィールドを選び、[ENTER]を押すと、必要な機能の画面へアクセスできます。[EXIT]ボタンを押すとSETTING MENUへ戻ります。

6.1 トレミュラントの設定

パイプオルガンでは、揺れの無い持続音を保つために、風圧を一定にすることが大変重要です。しかしながら、空気の流れの強さを変化させる機械装置も導入されてきました。こうして音が震える効果を作りだし、Vox Humanaのような耳に心地よい単独のボイスや、リード系ボイスにより多くの表情を持たせる効果を生みだしました。この効果は[TREMULANT]ストップを使うことにより、オン・オフできます。

トレミュラント機能を使うと、各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードの設定ができます。[SET-UP]メニューからトレミュラントのフィールドを選ぶと、ディスプレイは下記ようになります。



ここには2つの手鍵盤の、現在のDEPTH(トレモロの深さ)とSPEED(トレモロの速さ)が表示されます。

[EXIT]ボタンを押すとSET UPメニューへもどり、新しい設定を保存します。

注意:

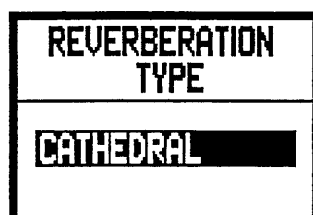
Depthとスピードのパラメーターは、ジェネラル・メモリー、専用メモリー、トゥッティに、それぞれ異なる数値で保存できます。これらの保存は6.7で説明する保存機能で行えます。

6.2 リバース・タイプの選択

ここではリバースの8つのタイプを選ぶ事ができます。これらのリバースはいろいろな環境に置かれたオルガンの響をシミュレートするものです。

左サイドパネルには[REVERB]つまみがあり、リバースの調整ができます。

リバースタイプを選ぶには、[SET-UP]メニューからREVERBERATIONフィールドに入り、[ENTER]を押します。



ここには、次のリバーブタイプがあります。

- CATHEDRAL: 大聖堂のリバーブ
- BASILICA: 大教会のリバーブ
- GOTHIC CHURCH: ゴシック教会のリバーブ
- BAROQUE CHURCH: バロック教会のリバーブ
- ROMANTIC CHURCH: ロマンティック教会のリバーブ
- MODERN CHURCH: 現代の教会のリバーブ
- PARISH: 教区教会のリバーブ
- CAPPELLA: 礼拝堂のリバーブ

[VALUE +] と [VALUE -] を使ってリバーブタイプを選びます。[EXIT]ボタンを押すと選んだリバーブタイプが保存され、SET UPメニューへもどります。

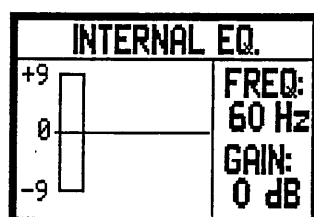
注意:

オルガン内蔵のリバーブは、鍵盤棚下の [INPUT] 端子から入る信号にも有効です。オルガンスタイルにもリバーブタイプが保存できます。これはリバーブタイプの異なる、オルガンスタイルが使えることを意味します。別のオルガンスタイルを呼出すると、そこに保存したリバーブタイプが有効になります。

6.3 内蔵イコライザーの設定

このオルガンには5バンドのグラフィック・イコライザーが内蔵されていて、オルガンの音色、音質をコントロールできます。(オーディオ・アウトプットには別のイコライザーがあります。)

イコライザーを設定するには、INT.EQUALIZERフィールドを選び、[ENTER]を押します。



画面右に次のパラメーターが現れます。

FREQ:

- GAIN: セントラル・トリガー・フリークエンシー
- FREQパラメーターで述べた、信号とフリークエンシーのゲイン

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使ってトリガー・フリークエンシーを選べます。次に、[VALUE +] と [VALUE -] を使って、信号を+9dBの範囲で調整できます。

グラフィック・イコライザーが画面右にリアルタイムで表示されます。

必要な設定が終わったら、[EXIT]ボタンを押して、設定を保存し、SETUPメニューへもどります。

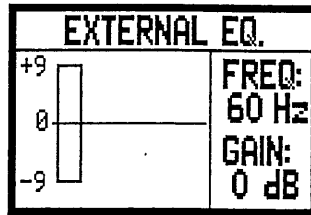
注意:

オルガンスタイルには、イコライザー設定を保存できます。他のイコライザー設定をしたオルガンスタイルが存在する場合は、別のオルガンスタイルをロードすると、イコライザー設定も変わることを意味します。

6.4 オーディオ・アウトプット・イコライザーの設定

内部アンプのイコライザーの他に、オーディオ・アウトプット[OUTPUT 1], [OUTPUT 2] の信号を調整する専用のイコライザーがあります。

このイコライザーを表示するには、SETUPメニューからEXT.EQUALIZERフィールドを選択します。



その設定画面は、内部イコライザーの画面と同じです。[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使ってトリガー・フリークエンスを選び、[VALUE +] と [VALUE -] を使って、信号を+9dBの範囲で調整できます。

注意:

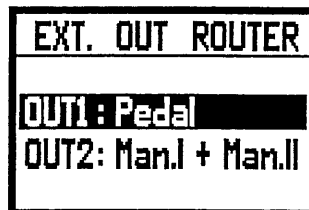
外部イコライザー設定は、鍵盤棚下のRCA[OUTPUT]へ供給される信号にも影響します。オルガン・スタイルオーディオ・アウトプットに影響するイコライザーの設定を保存します。したがって、別のオルガン・スタイルをロードすると、イコライザー設定も変わります。

6.5 オーディオ・アウトプットへのシグナル・ルーティング

また、鍵盤毎の信号を出力するアウトプットを設定できる便利な機能があります。

この機能により、外部スピーカーを配置して、ウインドチェストのシミュレーションができます。

この画面を表示するには、SET UP メニューからEXT.OUT ROUTERフィールドを選びます。



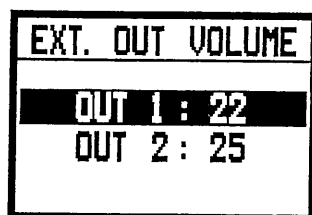
この画面には2つのオーディオ・アウトプット OUT1とOUT2が表示されます。各アウトプットの設定ができます。

- PEDAL: 足鍵盤のみ
- MAN.I: Man.Iのみ
- MAN.II: Man.IIのみ
- PEDAL:+MAN.I :足鍵盤とMan.I
- PEDAL:+MAN.II :足鍵盤とMan.II
- MAN.II:+MAN.II :Man.IとMan.II

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[VALUE +] と [VALUE -] で調整します。

6.6 オーディオ・アウトプット ボリュームの調整

各オーディオ・アウトプットのボリューム調整機能もあります。この画面を表示するには、SET UP メニューからEXT.OUT VOLUMEフィールドを選びます。



ここには次のパラメーターが含まれています。

- OUT1: [OUTPUT 1] のボリューム
- OUT2: [OUTPUT 2] のボリューム

ボリュームレベルは1から32の数値で設定できます。それぞれが対応するdBは次のとおりです。

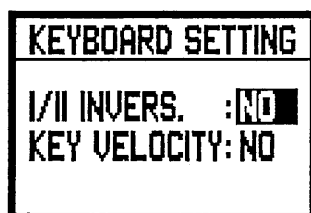
- 32: 0dB
- 20: -12dB
- 16: -16dB
- 10: -22dB
- 1: -32dB

注意:

リアパネルのアウトプット・ボリュームセッティングはRCA[OUTPUT]へ供給される信号にも影響します。

6.7 手鍵盤の基本設定

SET UP メニューからKEYBOARD SETTING フィールドを選びます。ここには手鍵盤の操作に関する2つのパラメーターがあります。



- I/II INVERS: Man.I, Man.II手鍵盤逆転機能です。この機能を使うとMan.IでMan.IIのボイスを、Man.IIでMan.Iのボイスを演奏できます。
- KEY VELOCITY: 手鍵盤の強弱機能をオンにします。この機能をオンにすると、オーケストラ・ボイスとMIDIノートの送信が鍵盤を押す速度と対応するようになります。この機能をオフにした場合は、強弱はMIDIバリュウ-127に固定されます。

これらの機能を使うには、[VALUE +] と [VALUE -] で YES を選びます。

NO を選ぶと、この機能がオフになります。

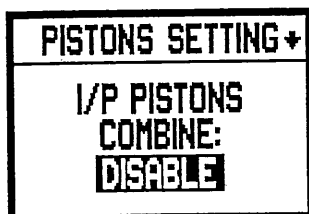
[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[EXIT] ボタンを押すと、新しい設定が保存され、SET UP メニューへもどります。

6.8 ピストンの設定

メモリー・ピストンには設定機能があります。[PREV.]、[NEXT] を押すと、メモリーを順に呼び出すことができます。

この機能を設定するには、SETUP メニューから PISTON SETTING フィールドを選びます。

画面は次のようになります。



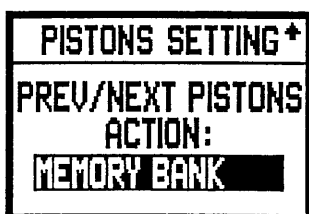
最初の画面でピストン・コンビネーション機能をオン・オフできます。これはMan.Iのコンビネーションを足鍵盤のコンビネーションとカップリングする機能です。例えばMan.Iのコンビネーションが呼びだされると、同じコンビネーションが足鍵盤でも自動的にオンになります。

これらの機能を使うには、[VALUE +] と [VALUE -] で YES を選びます。

NO を選ぶと、この機能がオフになります。

[FIELD ▼] ボタンを押すと、PISTON SETTING の次の機能へ進みます。これは

[PREV.]、[NEXT] に関連するものです。



GENERAL MEMORY を選べば、ピストンは通常のシーケンサーとして順番に各コンビネーションを呼びだします。

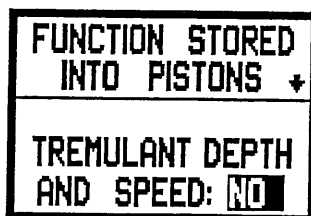
MEMORY BANK がセットされると、コンビネーションは順に現れることはなくなり、メモリーバンクだけになります。(メイン画面のMEMORY BANK) そのとき[NEXT] を押せば、メモリーバンクが進み、[PREV.] を押せばもどります。

両方の設定が終わったら、[EXIT] を押してSET UPメニューへもどります。

6.9 コンビネーション保存の設定

SET UPメニューのFUNCTION STORED INTO PISTONS機能を選ぶと、ジェネラル・メモリー、専用メモリー、トゥッティにお好みの設定を保存できます。

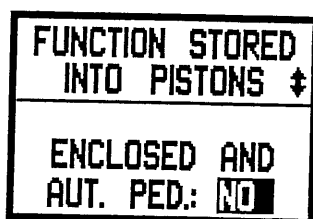
SET UPメニューのFUNCTION STOREDフィールドを選ぶと、画面は次のようになります。



この画面ではトレミュラントの速度、深さの保存をオン・オフできます。いろいろなコンビネーションを呼び出すと、そこへ保存されたトレミュラントも同時に呼び出されます。

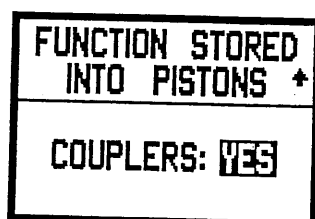
[VALUE +] と [VALUE -] で YESを選ぶとオンになりNOを選ぶとオフになります。

次に、[FIELD ▼] ボタンを押すと、FUNCTION STORED の次の機能へ進みます。



ここではエンクローストとオートマティック・ペダルのオン・オフ状態を保存できます。YESを選ぶとオンになりNOを選ぶとオフになります。

もういちど [FIELD ▼] ボタンを押すと、FUNCTION STORED の最期の機能へ進みます。



カプラのオン・オフ状態を保存できます。

設定が終わったら、[EXIT]を押して、変更を保存し、SET UPメニューへもどります。

7.MIDI

MIDI(Musical Instrument Digital Interface) は、特別なコードを持つプロトコルを使って、構造の異なるいろいろな楽器を同時に使うことのできるものです。MIDIシステムによって、単独の楽器より、はるかに広い汎用性を持つこととなります。楽器間のデータのやり取りをするために、MIDI付の楽器には2ないし3の5ピンDINコネクタをもっています。

- MIDI IN : 他の楽器からMIDIデータを受け取るための端子
- MIDI OUT : 他の楽器へMIDIデータを送り出す端子
- MIDI THRU: MIDI INポートで受けたMIDIデータを性格に送り出す端子

MIDI付の多くの楽器は、演奏された音と強さのMIDIメッセージをMIDIOUTから送信します。そのコネクタがエクパンダーのような、他の楽器のMIDI IN に接続されていれば、第二の楽器は送信した楽器の音に反応します。同様の情報伝達がMIDIシーケンスのレコーディングにも使われます。コンピューターかシーケンサーを使って、MIDIデータを送り出した楽器のレコーディングを行います。これらのレコーディングされたデータを楽器に送り込めば、レコーディングされた演奏をプレイバックします。

MIDIは多くのデジタルデータを送信できます。MIDIチャンネルは16あって、同じチャンネルどうしのみ、コミュニケーションできます。

MIDIメッセージはチャンネル・メッセージとシステム・メッセージに分かれます。

CHANNEL MESSAGES

NOTE ON : このメッセージは鍵盤を押したときに送信されます。

NOTE ON メッセージは次の情報を含みます。

Note On: キーが押されたとき

Note Number: 押されたときキー(の番号)

Velocity: キーが押されたときの強さ

Noteメッセージは0から127で表され、中央Cは60です。

NOTE OFF: このメッセージは鍵盤を放したときに送信されます。この信号を受けるとその鍵盤(キー)の長押しすると、外ロームのセッティングページが出ます。

Note OFF: 鍵盤が放された。

Note Number: 放された鍵盤

Velocity: キーが放されたときの速度

Velocity=0 のNote On メッセージはNote Off メッセージとみなされます。

ジュビレートはVELOCITY=0 のNote On メッセージを送信します。

PROGRAM CHANGE

PROGRAM CHANGE メッセージは受信側の楽器のプログラムや音を選ぶために使用します。またGENERAL MIDIという特殊な規格があり、それは、受信する各PROGRAM CHANGEに、どの音を呼び出すかを説明するものです。これに関連する記述は、この規格を使う楽器の取扱説明書の中に表として載っています。

Program Changeには、次の情報が含まれています。

Program Change: ボイスかProgram Change

Program Change Number: program または起動するボイスの番号

CONTROL CHANGE: しばしばトリマーやペダルに関連するこのメッセージは、演奏に表情をつける目的で使われます。エクスプレッション・ペダルのボリュームや位置を設定するボイス・パラメーターに関連しています。

CONTROL CHANGE メッセージは次の情報を含みます。

Control Change: コントローラーの調整

Controller Number: どのコントローラーを調整するか

Controller Position: コントローラーの位置

SYSTEM MESSAGES

SYSTEM EXCLUSIVE

このメッセージは送信したのと同じ楽器によってだけ解釈できます。主として楽器の発音とプログラム・パラメーターに関連します。

ジュビレートはこのメッセージをすべての内部パラメーターとボイスのオン・オフに使用します。

REAL TIME

このメッセージは接続した楽器の、特別なモジュールや機能のリアルタイム・コントロールに使用します。このメッセージには、スタート、ストップ、ポーズ/継続、また時計のコマンドを含んでいます。

START: シーケンサーのレコーディングまたはプレイバックのスタート

STOP: シーケンサーのストップ

PAUSE/CONTINUE: シーケンサーがストップモードにする。

CLOCK: シーケンサー スピート

注: ジュビレートでは上記の情報は送受信されません。MIDI全体の説明として書きました。

Real Time メッセージには2つのMIDI楽器間のデータのやり取りに使う Active Sensing code もあります。受けての楽器がMIDIデータを受けない場合や、300ミリ sec.でActive Sensing codeを受けられない場合、すべての音をオフにします。

このメッセージの送信、受信はオプションで、すべての楽器で可能なわけではありません。

MIDIの設定にアクセスするには、SETTING MENUのMIDIを選び[ENTER]を押します。

| |
|----------------------|
| MIDI SETTING |
| TX/RX CHANNEL |
| SEND PROG. CHANGE |
| TX/RX FILTER |

この画面で設定できる機能は次のとおりです。

- TX/RX CHANNEL: MIDI送受信チャンネルの選択
- SEND PROG. CHANGE: プログラム・チェンジ メッセージの送信
- TX/RX FILTERS: MIDIフィルターの設定

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[ENTER]を押すと必要な機能を選べます。
[EXIT]ボタンを押すと、MIDIのサブメニューから離脱して SETTING MENUへもどります。

7.1チャンネルを選ぶ

MIDIの送受信チャンネルを設定するためには、MIDIサブメニューのTX/RX CHANNELを選びます。

| |
|------------------|
| TX/RX CHANNEL |
| PEDAL : 3 |
| MANUAL I : 2 |
| MANUAL II : 1 |

オルガンの3つの鍵盤部に対応する3つのフィールドが表示されます。横の数字がその鍵盤部の送受信チャンネルを示しています。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[VALUE +] と [VALUE -] でチャンネルを選びます。

[EXIT]を押すと、MIDIメニューへもどり、設定が保存されます。

注意:

同一の鍵盤部に異なる送受信チャンネルを設定することはできません。
MIDI16チャンネルは選択できません。16はシステム・チャンネルで、VISCONTの他の楽器との、内部コードのやりとりに使います。

7.2 プログラム・チェンジ メッセージの送信

MIDIプログラム・チェンジ(PG)メッセージは接続した楽器に特別な音や、プログラム(patch)を呼び出すことができます。この機能を使うと、音源モジュールからボイスを選ぶことができます。

MIDIのサブメニューからSEND PROG. CHANGEを選び、[ENTER]を押すと次の画面が現れます。

| | |
|-------------------|----|
| SEND PROG. CHANGE | |
| PEDAL : | 21 |
| MANUAL I : | 1 |
| MANUAL II : | 44 |

PGメッセージを送信するためには、カーソルをその鍵盤部へあて、[VALUE +] と [VALUE -] でPGの数値を設定します。

各数値を選ぶと、関連するPGは自動的に送信されます。

例えば足鍵盤のMIDI AチャンネルがNo.3で、足鍵盤のフィールドの横に20を選んだ場合、プログラム・チェンジ No.20がMIDI 3 チャンネルへ送信されます。

この画面で設定したプログラム・チェンジはジェネラル・メモリーおよび専用メモリーに保存されます。上の画面でPGメッセージを選び、メモリーに保存します。この機能は特に外部音源モジュールを使っている場合に、またメモリーで呼び出したストップに特殊なボイスが必要な場合に大変便利です。PGの送信が必要無い場合は、PGをオフにした状態を保存して下さい。

7.3 フィルターの設定

MIDI フィルターはすべてのMIDIチャンネルの送受信で、チャンネルの指定された特定のメッセージを遮断する機能です。例えば、コントロール・チェンジ送信フィルターは、オルガンがコントロールするすべてのMIDIチャンネルで、[MIDI OUT]ポートへのMIDI メッセージの送信を制限します。

同様に、受信フィルターは、すべてのチャンネルで、[MIDI IN]ポートに受信するCCを制限します。(それらのCCは適用されません。)

MIDIフィルターを設定するには、MIDIサブメニューからTX/RX FILTERフィールドを選びます。次の画面が現れます。

| | |
|--------------|------------|
| TX/RX FILTER | |
| CC | : NO / YES |
| PG | : NO / NO |
| SYSEX | : NO / NO |
| REALTIME: | YES / NO |

次のメッセージのフィルターがオン・オフできます。

- CC: コントロール・チェンジ(コントロール・メッセージ)
- PG: プログラム・チェンジ(プログラム/ボイスを選ぶメッセージ)
- SYSEX: システム・エクスクルーシブ(システム・エクスクルーシブ メッセージ)
- REAL: リアルタイム メッセージ (スタート、ストップ、コンティニュー、MIDIロック、アクティブ・センシング)

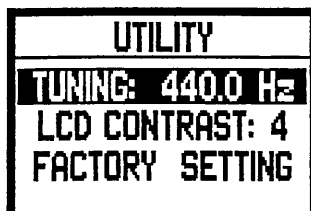
画面の右側には各メッセージのフィルター設定に関するフィールドが含まれています。
設定方法は次のとおりです。

- NO/NO: 送受信メッセージの両方のフィルターオフ
- YES/NO: 送信メッセージにのみフィルター有効
- NO/YES: 受信メッセージにのみフィルター有効
- YES/YES: 送受信メッセージの両方のフィルターオン

フィルターがオン(有効)になっていると、MIDIメッセージの送信/受信ができません。
[EXIT]を押すとMIDIメニューへもどり、新しい設定が保存されます。

8.ユーティリティ機能

SETTINGメニューのUTILITYサブメニューにはオルガンの基本的な3つのユーティリティ機能があります。チューニングとディスプレイのコントラスト、そしてファクトリーセッティングです。
このメニューへアクセスするには、SETTINGメニューの中のUTILITYサブメニューを選び、[ENTER]を押します。



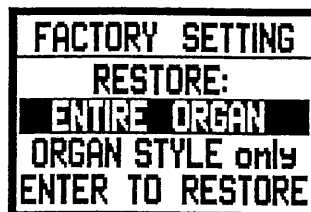
この画面には次のフィールドがあります。

- TUNING : 415.3Hzから466.2Hz(3番目のAで)の範囲で、0.1Hz単位で調整できます。
- LCD コントラスト: ディスプレイのコントラストです。
- ファクトリーセッティング: ファクトリーセッティングにもどす機能です。

8.1 ファクトリーセッティング

ファクトリーセッティングを行うと、ユーザーが行ったすべての変更がキャンセルされ、工場出荷時の設定へもどります。ジューブレットではリセットしたい部分を選ぶことができます。全体設定の復元と、部分的な復元が可能です。

ファクトリーセッティングを行うには、UTILITYサブメニューの中のファクトリーセッティングを選びます。
画面は次のようになります。



この機能を使って、オルガンのどの部分の設定を復元するか選ぶことができます。

- ENTIRE ORGAN: オルガンのすべての機能(メモリー、トランスポーター、テンペラメント、アンウサンブル、スタイル、ボイス、ボイス・ボリューム、SET UP機能、MIDIセッティング、ユーティリティ・パラメーター)
- ORGAN STYLE ONLY: スタイルのみ復元(ボイスとスタイルのボリューム)

オルガン全体のファクトリーセッティング

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでENTIRE ORGANを選びます。ファクトリーセッティングを行うと、すべての変更が失われるという警告が出て、その確認が求められます。

!!! WARNING !!!
CURRENT SETTING
WILL BE LOST
ENTER TO RESTORE
OR EXIT TO ABORT

ファクトリーセッティングをすすめるためには[ENTER]を押します。また、その操作をやめる場合は[EXIT]を押します。

ファクトリーセッティングが始まると、画面にはデータのリロードの間、スタンバイの表示が現れます。

FACTORY SETTING

PLEASE WAIT ...

その後自動的にオルガンの初期設定が立ち上がります。

部分ファクトリーセッティング

バイカウント社が設定したオルガンスタイルのみ復元しようとする場合は、FACTORY SETTING画面の中のORGAN STYLE ONLY を選びます。画面は次のように変わります。

FACTORY SETTING
ORGAN STYLE
RESTORE:
BAROQUE 1
ENTER TO RESTORE

ここで、[VALUE +] と [VALUE -] で復元したいオルガン・スタイルを選び[ENTER]を押します。

!!! WARNING !!!
CURRENT STYLE
WILL BE LOST
ENTER TO RESTORE
OR EXIT TO ABORT

コンピューターが、変更したボイスや、選ばれたオルガン・スタイルのボリューム等が失われることを警告してきます。この操作を続ける場合は[ENTER]、止める場合は[EXIT]を押して下さい。

FACTORY SETTING

PLEASE WAIT...

その後自動的にオルガンの初期設定が立ち上がります。

9.アペンドィクス

9.1 デモ ソングス

オルガンにはいくつかのデモ曲があり、音を聞くことができます。
デモを呼び出すためには、SETTING MENUからDEMOを選びます。次の画面が現れます。

NOT AVAILABLE

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンで、聞きたいトラックを選び、[ENTER]を押します。
プレイバックを止める場合は[EXIT]を押します。

9.2 ボイス ローカル オフ

ボイスをローカル・オフモードにすると、オルガンからは音がでなくて、MIDIメッセージ(System Exclusive)が送信されます。その結果、接続した楽器がオンになり、その楽器の音が鳴ります。

ボイスをローカル・オフモードにするためには、[S] (セット) ボタンを押したまま、[C] (キャンセル) ボタンを押します。そうすると、すべてのストップランプが点灯し、画面は次のようになります。

SOUNDS
LOCAL ON/OFF
PRESS SET+CANCEL
FOR SETTING

次にストップランプを押して、ランプを消します。そしてもう一度[S] と[C]を同時に押すと、ローカルオフが保存できます。

ローカル・オフ設定後の画面がその状態を示します。

- ランプ点灯: ボイスがローカル・オフモードになっています。(オルガンの音はでます。)
- ランプ消灯: ボイスがローカル・オフ状態になっています。(オルガンの音はでません。)

通常の操作では、ボイスがローカル・オフモードになっている場合、電源スイッチをオンにすると、ストップランプが3回点滅した後、点灯します。

9.3 オペレーション システムの アップグレード

オルガンのオペレーション システムのアップグレードにはMIDIファイル(.MID)リーダーが必要です。つまりアップグレード ファイルのデータがオルガンに送信されなければなりません。MIDIシーケンスに使うハードウェアか、このタイプのファイルを情報処理できるコンピューターのソフトウェア パッケージを使うこととなります。送信側のMIDIデータ アウトポート*にコンピュータの[MIDI IN] コネクターに接続して下さい。(*ハードウェアモジュールのMIDI OUTか、シリアルか、USB/MIDI インターフェイスか、コンピューターを使っている場合のジョイポート等です。)

必要な接続が済んだら、[FIELD ▲]、[VALUE +]、[ENTER]の3つを同時に押したまま、電源スイッチをオンにします。画面は次のようになります。

```
*****  
                WAITING  
                TO UPDATE  
*****  
Enable MIDI
```

これはアップグレードが呼び出され、データを待っている状態を示しています。ついで、.MIDファイルが送信側の機器に準備されます。接続が成功し、アップグレードのファイルが準備できると、画面は受信したデータをパーセンテージで表示します。

```
*****  
                WAITING  
                TO UPDATE  
*****  
Enable MIDI  
Loading= 3%
```

受信が済むと次の画面が現れます。

```
*****  
                UPDATE  
                COMPLETED  
*****  
Enable MIDI  
Loading= 100%
```

ここで一度オルガンの電源を切り、再びオンにします。そのときに次の画面が出た場合は

```
*****  
                RELEASE CHKSUM  
                ERROR  
*****
```

アップグレードが不成功だったことを示します。はじめからやり直してください。